



経費が大幅に



市が橋北児童館の民間委託を提案 市の運営のほうが安上がりなのに

日本共産党の豊田つかさ議員は、橋北児童館の民間委託問題と私立高花平保育園の認定子ども園化について、一般質問を行いました。

児童館は、地域児童に健全な遊びを与え豊かな情操をはぐくむ施設で、児童福祉法に基づいて設置されています。

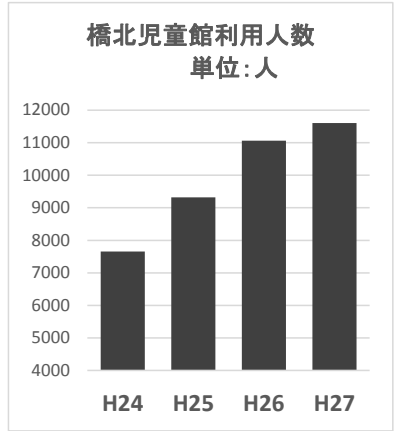
市内には4か所あり、橋北児童館はそのうちの1つです。

橋北児童館の運営は、地域の学校、民生委員などの協力のもと、多彩な遊び・行事が行われており、職員の努力により利用者数もここ数年大きく増加しています【下図】。

そしてその特徴の1つは、極めて少ない予算で運営されていることです。担当職員は嘱託職員2名と、6時間パート職員1名。館長、主任も他の3館と兼任する嘱託職員です。

ところが、市は8月議会で、橋北児童館を「子ども子育て交流プラザ」と改称し、管理・運営を来年4月から民間に委託する予算案を提案しました。

区分	運営経費
市が運営	1年分 1,339 万円 (平成 27 年度決算額)
民間に委託	2年分 4,880 万円 (平成 28 年度補正予算額)



市が委託の理由として説明したのは、民間のほうが開館日を増やし、開館時間を延長できる、また運営にもノウハウを持つているからというもの。

しかし、提案された委託費の予算額(見込み額)は、市が直接運営してきた経費の1・8倍にのぼります【上表】。

開館日・時間を拡大するならば、市の嘱託・臨時職員を増員したほうがはるかに安上がりですし、運営のノウハウも、市は開館以来40年の蓄積を持っており民間に劣ることはありません。

予算を大幅増額してまで委託する合理的理由がありません。

豊田議員は、民間委託を計画した理由がよくわからない、契約期間が2年で事業者が変わることが子どもたちのためになるのか、などと指摘。市で運営を続けるべきだと主張しました。

公的責任後退する「認定子ども園」化

市は現在、私立高花平保育園と市立高花平幼稚園とを統合し、私立認定子ども園とする話を進めています。しかし、保育園を認定子ども

園にすることは問題が多い。保育園の保育は、公立・私立を問わず市に実施責任がありますが、認定子ども園は、市の委託により保育を行うわけではありませぬ。施設の入園に際して、保育園の場合は、保護者は市と入園契約することになります。認定子ども園の場合は、その施設と契約します。

豊田つかさ議員



記事に関するお問い合わせは

Eメール t-tsukasa@angel.ocn.ne.jp

太田のり子議員は、高齢化が進む中で、四日市市でも日常の買い物に困難な「買い物弱者」が今後大きく増加することが予想されるとして、その対策の検討を求めました。

「買い物弱者問題」は国でも関心を持っており、農水省が昨年4月公表した調査結果によると、買い物弱者数は全国で700万人にのぼると推計されています。四日市市でも、平成37年には75歳以上の人口が4万6千人

全小中学校にエアコン 900教室を2年で整備

鈴鹿市

- 鈴鹿市教育委員会は7月15日、市議会に対し、市内の全小中学校の900教室(特別教室250室、普通教室650室)に、平成28年度と29年度の2年間で、エアコンを整備する計画を伝えました。
- ひるがえって四日市市。日本共産党議員団の長年の主張が実って、平成26年度から整備が始まりましたが、そのテンポは遅い。平成26年度に図書室52室、27年度に視聴覚室53室、28年度は音楽室46室に取り付けられてきていますが、これでは、残る普通教室約960室を終えるには、あと18年もかかる(!)ことになってしまいます。

四日市市も 短期間で整備を

「買い物弱者」 対策の検討を



と、現在より大幅に増加することが見込まれており、この問題は、過疎地域にとどまらず、本市でも今後大きな社会問題となることが予想されます。

こうしたことを踏まえ太田議員は、現状をどう認識しているのか、今後の対策をどう考えているのかをたずねました。

市は、「家まで商品を届けるといふ点で、移動販売などの起業支援を検討したが、本市の状況では固定的な買い物の確保が難しく、採算性など解決課題が

太田のり子議員



記事に関するお問い合わせは

Eメール noriko0526@m6.cty-net.ne.jp